

風土記の丘の花だより⁸⁵

今、そしてこれから見られる植物(2021年5月8日)

GWも終わり日常が戻ってきました。でも、このご時世、本当の日常に戻るまでにはあとしばらく我慢が必要です。日差しがきつくなってきましたから、歩くときは紫外線防止対策を忘れずに。そしてもちろん水分補給も。



さて、はじめは前回紹介したアヤメに次いでカキツバタです。旧谷山家の庭や万葉植物園で両方同時に咲いている時もあるので、比較するのにはいいですね。漢字では「杜若」と書くそうですが、読みづらいですね。また、昔はこの花の汁を布にこすりつけて染めたので「掻き付け花・かきつけばな」それが、カキツバタになったということですが、ちょっと無理があると思いませんか？ミツバがあちらこちらでたくさん生えています。料理に使うあのミツバです。むしゃむしゃモリモリ食べる野菜ではありませんが、ちょっと添えると料理がグレードアップしますね。昔は家の庭の隅に植えていましたが、今はスーパーで買う人の方が圧倒的に多いでしょうね。セリ科の植物なので、良い香りがします。



キンランが密かに咲いています。普通のキンランは1本の花茎にいくつかの花を付けますが、この株は生育不良のせいでしょうか、たった1輪しか咲いていません。園内を散歩される方に聞くと、「かつてはたくさんあったが、最近は見なくなった」とのことです。環境の変化もあるでしょうが、一番大きな原因はおそらく「盗掘」でしょうね。悲しい現実です。



カラスビシャクの花がたくさん咲いてきました。サトイモの仲間面白い形の花です。ウラシマソウもまだ咲いていますが、同じ仲間です。色や大きさは違いますが、言われてみれば花のつくりはよく似ているでしょう。葉は3枚に分かれていてひよろひよろしています。(テキトーな表現でごめんなさい)花の茎も細長いので、長く伸びた花はじきに倒れてしまいます。緑色なので、他の草に紛れて見つけにくいかもしれませんが、探してやってください。 松下